

第2回脳血管内治療における救急医療体制（病院前救護）運用協議会 会議要旨

1 開催日時

令和7年10月27日（月） 午後7時30分～午後8時10分

2 開催場所

オンライン及び広島市本庁舎14階第7会議室

3 出席者等（委員19名中18名出席）

・委員（18名）

堀江委員長、村上委員、源委員、住居委員、石井委員、柰津委員、荒木委員、一ノ瀬委員
梶原委員、岐浦委員、越智委員、蛭子委員、大下委員、野村委員、松重委員、齋藤委員、仲委員
碓井委員

・オブザーバー（6名）

兵庫医科大学 脳卒中センター 内田 和孝 准教授
兵庫医科大学病院 脳神経外科 河野 淳一 医師
広島県健康福祉局医療機能強化推進課 高橋 一剛 主査
広島市消防局警防部 松永 真雄 救急担当部長
広島市消防局警防部救急課 中田 大嘉 課長補佐
中村 隆司 主査

・事務局（3名）

広島市 小磯医療政策課長 他2名

4 会議要旨

(1) 「脳血管治療等に係る救急患者の搬送について」の実績と効果の検証について

説明者：兵庫医科大学病院脳神経外科 河野 淳一 医師

【意見・質疑応答等】

（兵庫医科大学 河野医師）

来年度に向けての提案として、ジャストスコアの使用率向上に向けて救急課と協議の場を設けてはどうかと考えている。また、LV0 症例以外においても「最終健常確認時間」または「発症時間」の項目を収集してはどうか。

（堀江委員長）

救急隊においてジャストスコアの使用状況はいかがか。

（消防局救急課 中村主査）

明らかに脳卒中疑いである患者の場合は、現場に着いた時点の所見で病院調整を行う場合もある。2023年10月から広島県救急搬送支援システムが導入され、タブレットで医療機関に情報を伝えることとなった。ジャストスコアも同じタブレットを使用しており、同時に入力ができない現状であったため、利用率が低下しているのではないかと考えている。なお、今年度からは救急隊のスマートフォンでもジャストスコアが使用できるようにアカウントを追加している。

(堀江委員長)

ジャストの使用率を向上するために広島県との協議が必要である。

(荒木委員)

広島県救急搬送支援システムは医師の負担軽減になる印象であるが、患者のことを考えるのであればジャストスコアを使用すべきであり、県の事業と市の事業のすり合わせを行政に行っていただきたい。

(堀江委員長)

広島県救急搬送支援システムを協議している広島県地域保健対策協議会の救急医療特別委員会やワーキンググループに市域の脳神経外科の医師がメンバーとして組み込まれていないため、ジャストスコアとの連携ができていない。今後は市域の脳神経外科の医師もメンバーとするべきである。

(小磯医療政策課長)

救急隊の負担軽減を図るためにも県との調整が必要だと考える。救急搬送支援システムは厚労省のモデル事業になっている。担当である広島県健康危機管理課と今後協議を行っていきたい。

(2) 今後のジャストスコアの運用実績の検証方針等について (案)

説明者：小磯医療政策課長

(資料2のとおり検証していくことについて、各委員から異論はでなかった。)

【その他意見・質疑応答等】

(松永救急担当部長)

救急隊がジャストの判定結果を伝えても受けられる先生や担当者によっては伝わらないことがある。そのようなことが頻回にあると救急隊のジャストスコアの使用率低下につながると考える。救急隊と病院の両者が一緒に頑張っていきたい。

(堀江委員長)

改めて病院のスタッフにジャストスコアの周知をお願いする。また、皆様の協力もありデータベースが集まっているため、今後、論文などが発表できるのではないかと考えている。また、データベースの活用があれば声をかけていただきたい。

(岐浦委員)

ジャストスコアのサーバーの費用はどこが予算確保しているのか。

(兵庫医科大学 河野医師)

2年前から市の事業として予算確保してもらっている。